

## 「国家」を丁寧語り、行動したい」

参議院議員 比例代表（全国区）選出

神道政治連盟国会議員懇談会 副幹事長

ありむら  
有村 治子 はるこ

共に歩んで下さる同志の皆様こんにちは。いつも温かい御指導と友情をお示して下さい、本当に有難うございます。来年七月の参議院議員選挙に向けて神道政治連盟をはじめとする全国の神社界の皆様から、篤いご支援を賜っておりますことに、衷心より御礼を申し上げます。

皆様にお育て頂いて参議院の議席を二期お預かりする中で、私が自由民主党を代表して臨んだ本会議場での代表質問や、NHK全国中継のある総理・閣僚への国会質問には、一貫した共通点があります。

- ・ 万世一系の皇統を守ることの価値と、皇位継承の伝統
- ・ 占領下に制定された憲法の問題点と具体的改正案
- ・ 歴代総理の歴史認識と戦没者追悼のあるべき姿
- ・ 教科書における領土教育の拡充
- ・ 政治家が二重国籍を持ち続けることの危険性
- ・ 政教分離の原則と、被災地での「心の復興」の具現化
- ・ 敬意をはらうべき自国と他国の国旗掲揚の国際マナー
- ・ 国民に奉仕する公僕としての倫理、国家公務員の働き方改革
- ・ 国民の食糧安全保障と食の安全

…等々。

国民生活の安全、国旗や国歌、国土や領海の保全、日本の国柄など、様々な分野の政治課題を取り上げていますが、常に共通しているのは、「国家」「国民」という日本全体にとっての安全性や公益をどう確保し、具現化するか、という視点です。「国会議員が国家観を持つのは当然だ」と思われるかもしれませんが、実際にはモリ・カケ問題に終始した先の通常国会も含め、激動の世界で日本が生き抜く国家戦略が、国会論戦の中心になっている訳では必ずしもありません。

事実、戦後の日本では、自らの生存と暮らしの土台となる国の安全や国土の保全について、強い思いを致さずとも、平和と経済的繁栄・国際的地位を手にすることができました。とても幸運なことでした。しかし同時に、これは日本をとりまく内外の現実を直視し、日本の安全をどう創り固め

なすかを「国家」という視点で真面目に論じようとしただけで、右翼やタカ派とレッテルを貼られる時代でもありました。自分達の安全確保の方策をまともに議論すらできないとしたら、これは不幸なことであり、随分危険なことでもあります。

戦争の反動で大きく揺れた戦後教育、とりわけ近現代史、アジアの歴史等をいかに教えるかという問題は、イデオロギー対立における右・左双方にとつての核心的論点であり、教育現場においては、先生方がこの単元を教えないことによって、思想的対立のリスクを回避する風潮も続いてきました。

国の根本法規である憲法についても、「憲法改正」か「護憲」かの二者択一の論争が長く続き、与野党の激しい攻防が繰り返されてきました。その一方で、憲法制定時と七十年以上を経た現在では、国内外にどのような構造的変化が生じているのか、日本をとりまく内外の状況にはいかなる危機があり、国民はどう対処すべきだと政府・各政党が考えているのか、という現実的で冷静かつ建設的な対話は、残念ながら日本の国会がいまだ国民に提示できていません。時に国家の盛衰を決するはずの政治家が、座標軸のある国家観を持たずして、果たして国の未来は明るく安全なものになるのでしょうか。

私に課せられた使命は、安易なイデオロギー対立やステレオタイプのレッテル貼りに巻き込まれることなく、日本という国家や、日本人という国民性を真摯に自らの言葉で語り続け、「日本応援団」の共感や支持して下さる世論を、丁寧な紡いでいくことだと考えます。自らの安全と幸せを念ずるがゆえに、その土台となる国家の安泰と国民の安寧について、どうしたら実現できるのか考えて下さる国民の層を厚くすることです。国家を丁寧に語るためには、自らの政治信条や思想的立場を主張するだけではなく、学術的にも、歴史の評価にも耐えうる論拠を生み出す探究が求められます。

地に足をつけた政治家として、国家を丁寧に語り、国民的共感を頂ける言動を重ねていきたいです。(一、五九〇字)

※文中外

来年七月に行われる参議院 比例代表(全国区) 選挙に向けて、神道政治連盟は有村治子さんを推薦しています。参議院 比例代表(全国区)は、北海道から沖縄まで全国四十七都道府県にお住まいの有権者の皆様に、候補者個人名で投票頂ける選挙制度です。